

■近藤真琴 洋学者・教育者。幕末に蘭学塾を開き、〈維新〉で海軍操練所の教師に招聘され、異色の〔攻玉社〕へ。

こんどうまこと

富嶽三十六景1831= 江戸麹町鳥羽藩邸で、志摩国鳥羽藩士近藤穰智の次男に生まれる。

高島砲術・1834= 3歳：父が死去、家督を相続し、真琴と名乗る。

賢母の誉高い母誠子から、和漢書ことに「論語」「大学」の素読を受け、

大塩平八郎乱1837= 6歳：

適塾ワゴン・1838= 7歳：鳥羽藩士から、孟子等を学んだ後、藩校の江戸分校に入学。

勲進帳初演・1840= 9歳：

校主小浜撲介について国漢学を学び、

阿部正弘首座1845=14歳：

北斎没・・・1849=18歳：伊勢亀山藩儒医堀池柳外に漢学を学んだ後、

ペリー来航・1853=22歳：蘭学を志し、和泉岸和田藩医高松讓庵に蘭学を学ぶ。

安政大地震・1855=24歳：鳥羽藩の蘭学方となる。母への孝行で、藩主から褒章。

蕃書調所・・・1857=26歳：**\*村田蔵六(大村益次郎)の塾鳩居堂に入門して洋式兵学を習い、さらに、軍艦操練所で西洋航海測量術を学ぶと、四谷坂町鳥羽藩邸内の自宅において攻玉社の前身たる蘭学塾を開く。オランダの定評あるピラールーの航海書を邦訳して評価を得、中小姓となり、**

五ヶ国条約・1858=27歳：**鳥羽藩漢学教授・世子侍読に任じられる。**

桜田門外変・1860=29歳：結婚。

生麦事件・・・1862=31歳：藩命で、藩士への蘭学教授のため、単身鳥羽に移住。

8月18日政変 1863=32歳：帰府し、**矢田堀景蔵・荒井郁之助について航海術を学ぶ。藩江戸屋敷内に蘭学塾を開設。**

幕府海軍操練所翻訳方・測量学教授補助から、

薩摩藩士密航1865=34歳：**英学的重要性に目覚め、その勉強に励み、**

**軍艦操練所翻訳方に抜擢され、**

大政奉還・・・1867=36歳：

明治維新・・・1868=37歳：**日本初の翻訳SF小説「新未来記」を発刊。**

戊辰戦争終・1869=38歳：**\*兵部省に迎えられ、海軍操練所中教授となる一方、築地海軍操練所に塾を移転して攻玉塾と改称。**

廃藩置県・・・1871=40歳：福沢諭吉から慶応義塾の土地一部を譲渡され、攻玉塾を芝新銭座に移転。

学問のすすめ1872=41歳：海軍中佐まで昇進、

明治6年政変 1873=42歳：**海軍省に出仕し、博覧会一級事務官としてウィーン万国博覧会に派遣され、**

帰国後、

初の民間工場1875=44歳：**「澳行日記」「壤国博覧会見聞録別記子育ての巻」など出版。竹芝に、日本初の商船学校航海測量習練所開設。**

三つの反乱・1876=45歳：

西南戦争・・・1877=46歳：この年に始まる内国勸業博覧会の審査官としても活躍した。

**フレールベルの幼年教育を紹介したり、攻玉社で維新後最も早くから文法を教授しながら、**

**海軍軍人として、また海軍兵学校教官として累進し、**

・・・1880=49歳：陸地測量習練所(量船營)併設、

明治14年政変1881=50歳：

新体詩抄・・・1882=51歳：**\*海軍操練所の後身の海軍兵学校教務副総理・海軍一等教官まで昇り、**

岩倉具視没・1883=52歳：**{かなのくわい}の設立に参加して、**

**攻玉社を測量術・航海術を教授する異色の学校として発展させ、女子教場なども併設するに至り、**

内閣発足・・・1885=54歳：**「ことばのその」などを発刊するなど、文明開化のテクノクラットとして活躍、**

帝国大学始・1886=55歳：**退官し、没した。**